

防災功労者内閣総理大臣表彰



(危機管理課)

左から台沖団長・三村町長

平成30年7月豪雨における熊野町消防団の活動について、その功績が顕著であると認められ、防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞しました。当時は、町内各地での避難誘導や大原ハイツにおける避難路の啓開、行方不明者の捜索など、炎天下の中、消防、警察、自衛隊などと協力し、活動しました。消防団員は、それぞれの仕事に従事する中、訓練に励み、火災や災害が発生した場合には、町民の生命・身体・財産を守るため、活動しています。

熊野町功労表彰

熊野町議会議員として12年以上熊野町政の進展に尽力された功労に対して、荒瀧穂積議員が、町の功労表彰を受賞されました。



左から大瀬戸議長・荒瀧議員・三村町長

(総務課)

安全安心なまちづくり功労表彰

児童の登下校時の見守り活動などをおして、安全で安心なまちづくりに貢献された坪井芳明さんに熊野町長から感謝状が授与されました。



左から二浦防犯組合連合会長・坪井芳明さん・三村町長

(生活環境課)

三重県熊野市との友好都市協定締結に向けて PART③

現在、熊野町では三重県熊野市との友好都市協定の締結に向けて協議を行っています。今月号は、三重県熊野市にまつわる神話について、お伝えします。

神々が宿る地「熊野市」

ここ熊野市には、多くの神話が語り継がれています。その一つをご紹介します。古来、神話の時代から日本人にとって特別なエリアだった「熊野」。熊野は、「あの世」＝「黄泉」につながる聖なる地と信じられており、穢れを祓い、生きていながら「よみがえる」「新たな自分に生まれ変わる」ことを求め、多くの人々が「熊野古道」を歩いてきました。そして、「よみがえり」を象徴するスポットが、熊野市にある日本最古の神社と言われている「花の窟」です。花の窟は、伊勢神宮に祀られている天照大神の母、イザナミノミコトの墓所と言われており、日本書紀には『紀伊国の熊野の有馬村に祀りまつる』と記されています。社殿はなく、高さ約45mの窟をそのまま御神体としており、太古の自然崇拜の遺風を漂わせています。夫のイザナギノミコトとともに「国産み」「神産み」をした母神イザナミノミコトは、火の神を産んだ際に火傷で亡くなり、黄泉の国へと旅立ちますが、諦めきれない夫が黄泉の国まで追いかけていったとのエピソードから、花の窟には「黄泉への入口」があると信じられています。毎年、2月2日と10月2日には、百尋（166m程度）の大綱を高さ約45mの御神体の窟頂上から『七里御浜』（世界遺産）へ引き出して境内へ渡す「お綱かけ神事」（三重県指定無形民俗文化財）が執り行われ、五穀豊穡を祈願するとともに、神と結びつながり、神の恵みをいただく神事として太古から受け継がれています。

